

平成30年度 館邑会 事業報告

1. 役員会等の状況

開催日	事業名	内容
6月4日	第1回理事会	平成30年度事業報告・決算、運営規程変更、補正予算
6月19日	第1回評議員会	平成30年度事業報告・決算、補正予算
10月12日	第2回理事会	てんしゃば定員増、運営規程変更
2月5日	第3回理事会	補正予算、就労移行事業の廃止、運営規程変更 陽光園障害者相談支援センター廃止、評議員会開催 業務執行状況報告
2月19日	第2回評議員会	補正予算
3月15日	第4回理事会	運営規程変更、給与規定変更、平成31年度事業計画・予算 管理者選任(異動)、評議員会開催
3月29日	第3回評議員会	平成31年度事業計画・予算

2. その他会議やイベント

開催日	事業名	内容
8月1日	館邑会後援会	決算・予算、事業報告
10月4日	第三者委員会	苦情解決について、虐待への取り組み、その他
10月20日	秋まつり	
2月10日	新年会	

3. 研修会(地域福祉講演会 主催:館邑会)

開催日	事業名	内容
1月26日	「障害者虐待とは」	なぜ虐待がおきるのか?どうしたら予防できるのか?

苦情受付処理結果

令和1年9月30日現在

事業所名	受付時期	苦情の内容	解決結果	解決レベル
GOOD JOB	R1.5.27	からふるに本人の母親から電話がある。先週末からふるの職員に「もう来るな」と言われた。と話し、行きたくないと話している。職員ではなく、他利用者からそのようなことを言われていたことを伝えると「うちの子が嘘を言っているということか」と指摘を受ける。からふるには「もう行かない」と話を受ける。	管理者に報告。すぐに管理者より家庭に電話する。父親が対応。まずは、事業所内で本人が嫌な気持ちになったことについて謝罪する。その後、これまでの経過について説明(職員から聴取した内容)する。父親も「本人が言っていることを信じたい」とのことであり、これは言葉の虐待ではないかとも話があったので、虐待防止センター(ほっと)に相談してもらって構わないことを伝える。家族で相談支援センターほっとに訪問して話し合いを行う。本人からの聴取により「来るな」と言われたことについては、他利用者であったことが判明。その後、父親から電話があり、誤解は解ける。今後、本人の気持ちを励ますような声かけをお願いしたいと話があった。本人の気持ちが落ち着けば、これまで通り出勤してほしいこと。今後も本人の話を聞きながら一緒に考えていくことを伝えた。	管理者・ほっと
からつく	R1.6.7	今週、作業グループの企画で外食に行くことになっており、本人にその必要経費が1000円とのことと本人に持たせた。今日本人に確認したところ外食には行かずに、「お金はない」と本人が話しているが、外食はどうなったのか、本人に聞いても話さないで電話をしたとのことであった。	外食会は、行われた。人数が多いため数回のグループに分け日程をずらしながら実施した。本人に声をかけたところ「行きたくない」と返事があった。せっかくの機会なのでどこかのグループと一緒に行ければよいと思い無理強いはせず、本人の意思に任せ、グループが行く日ごとに声をかけたが最終的に本人は参加しなかった。本人が、飲み物を買うところは見ているが、外食分のお金を使っているのは職員も思わなかったようです。と伝える。このところ暑い日が続いているので自動販売機で使っている回数が増えている様子はあったようです。とも伝えた。母親は、せっかくの外食だから行けばよかったのにと話していたが、その都度企画の話は本人に伝えるが、参加不参加は、本人の意思を尊重していきたいことを伝える、できる限り参加できるようにしていきたいことも話した。	サービス管理責任者

社会福祉法人館邑会の役員

1. 評議員
前山秀樹(善長寺住職)
三田正信(館林市社協長)
峯崎俊雄(板倉町社協長)
立木留吉(明和町社協長)
久保田 馨(千代田町社協長)
神長泰弘(大泉町社協長)
田部井猛夫(邑楽町社協長)
安楽岡信子
2. 理事
山川 博(理事長)
太田敏雄
谷津義男
石村 實
山本 樹
多田善洋(県議会議員)
黒田香代美(陽光園所長)
3. 監事
田沼俊彦
栗原則雄
第三者委員
田中美喜雄
平野一男(司法書士)
石村澄江

編集後記

ようこうだよりの編集を担当して今回で3回目となる。いまままで一番ドタバタと過ぎたように思う。今年度も半年が過ぎ、5月に和暦も「令和」に変わり、10月には消費税が10%に上がった。消費税増税に伴い、報酬改定もあったが・・・利用者さんにとつてよりよい環境づくりのために我々ができることをしていきたいと思う。

